



日本の電力自由化の中間的評価

RIETI政策シンポジウム
平成16年12月15日

アジア・太平洋エネルギーフォーラム
代表幹事 末次 克彦

日本の電力自由化の中間的評価

1. わが国自由化市場の価格動向、
競争動向の評価
2. 送電線アクセスの評価
3. 参入状況の評価と参入確保策
4. 電力会社の対応 / 市場行動の状況
5. 需要家の対応
6. 卸市場整備 / 広域市場の課題
7. 欧米自由化の教訓
8. 今後の自由化路線の選択

1. わが国自由化市場の価格動向、競争動向の評価

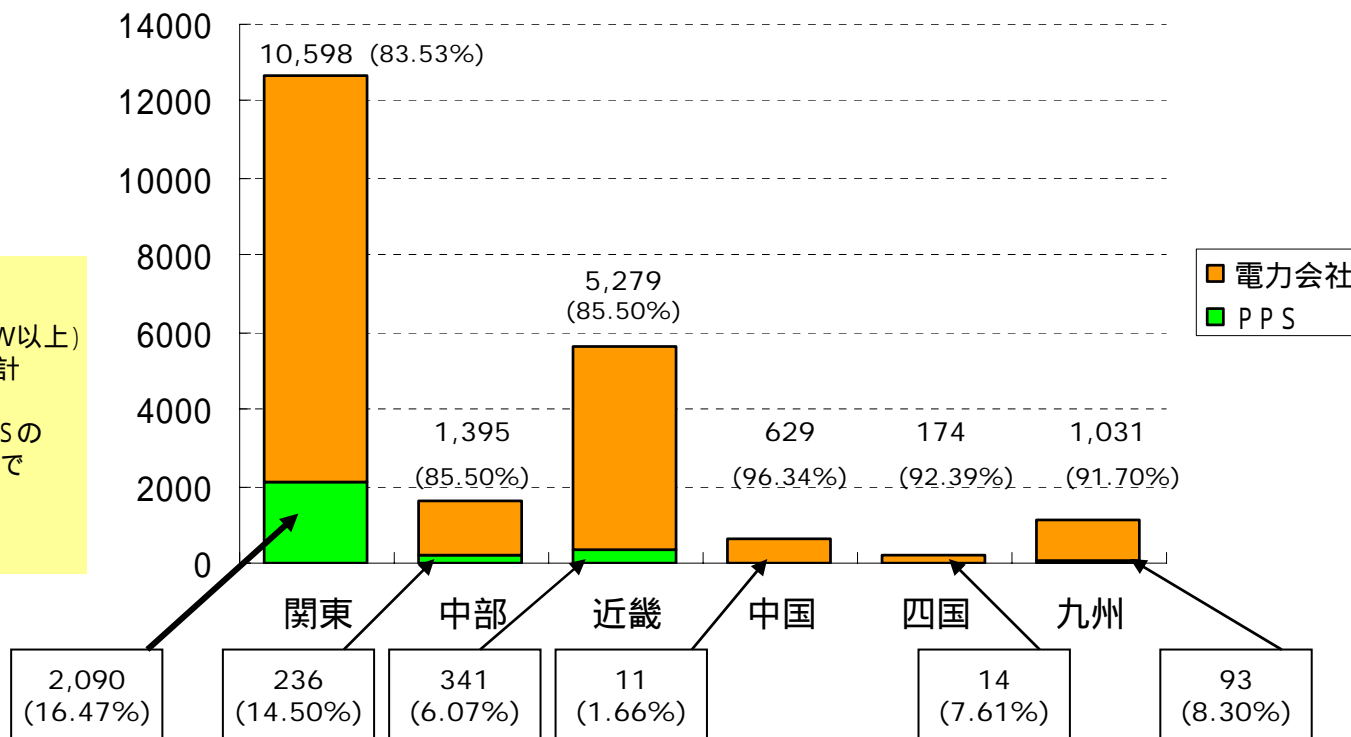
自由化、規制価格とも下落 コストの内部補助は起きていな (グラフ1、2参照)

電力間競争は実質的に起きる

イ) 電力間の価格差生じると割り高市場へPPS参加可能へ

ロ) 卸市場でのPPSアクセス拡大は間接的な電力間競争

(100万kWh) 電力自由化市場(業務用)への参加状況



注1) 業務用とは、特高(2000kW以上)と高圧(500kW以上)の合計

注2) 業務用市場(全国)でのPPSの獲得したシェアは15年度末で12.7%、27.9億kWh

2. 送電線アクセスの評価

託送約款の簡素化を(P P Sの要請「託送量予約仕様の簡素化を」)

連係線インフラの増強(推進メカが課題)

—歴史的な系統構造が制約

広域送電はP P Sの電源次第

3. 参入状況の評価と参入確保策

業務用市場では関東市場で離脱件数増加
参入実績が上がる (図1参照)

PPSの電源調達は同時同量への調整力ある
安価な余剰自家発に限度あり

大型電源投資の市場・ビジネスリスクは大きい
業務用自由化市場の価格リスク

4. 電力会社の対応/市場行動の状況

需要規模の大きい顧客の離脱防止へ
価格競争

適正取引ガイドライン、行為規制の
感覚の浸透

新規原発の需要確保策が必要
出力調整を

5. 需要家の対応

供給者選択の行動は確実に強化された
電力会社が顧客の声を聞くようになった

官公需市場の動向 価格要素だけの競争
なのでPPSの参入容易

アグリゲーションの自由化に及ぼすインパクト

6. 卸市場整備 / 広域市場の課題

卸市場の拡充 メニューの拡大

緊急時バックアップ用電力の取引
(SPOTの活用で)

投入電源はPPSの新規大型電源、契約
更新時のIPP電源

7. 欧米自由化の教訓

余剰力なくなっている + 長期的な大型投資
抑制 供給力の脆弱性が上昇 (グラフ3参照)

実時間価格変動への需要反応は鈍い
技術リスク増で革新技術入らず

8. 今後の自由化路線の選択

自由化による設備投資の抑制が需給窮迫に
— 小売完全自由化のリスク